

玉名女子高等学校 「学校関係者評価」 実施要項

平成30年4月

1. 目的

実施している保護者・生徒アンケートや自己評価の結果を評価することを通して、自己評価の客観性・透明性を高め、学校・家庭・地域が共通理解を持ち、連携協力により、学校運営の改善に当たることを目的とする。

2. 学校関係者評価委員会の構成

保護者代表及び法人評議員とする

3. 学校関係者評価の実施

- ① 前年度の自己評価、保護者アンケートの提示を受ける。
- ② 評価に先立ち、学校行事の参観、施設・設備の視察をする。また、教職員や児童生徒との対話等を行い、学校状況についての理解を深める。自己評価の結果を踏まえた、今後の改善方策について評価する。評価に必要な事柄があれば、請求し検証する。
- ② 実施時期 自己評価及び生徒・保護者アンケート (1月実施)
まとめ資料の作成 (2月実施)
学校関係者評価委員会 (5月、2月頃)

4. 報告

学校関係者評価委員会は、評価の結果を取りまとめ、今後の改善方策について検討し、報告書を作成のうえ校長へ提出する。

5. 結果の活用

学校関係者委員会の作成した報告書により、今後の改善方策を次年度の重点目標の設定に反映し、具体的な取り組みの改善に用いる。また、これにより、教職員の課題に対する共通理解の促進とともに、改善への意識の喚起となるよう活用する。

さらに、改善の必要のない一層促進すべき事項について確認をし、特色ある学校づくりに活かしていくものとする。

学校関係者評価委員会

実施日 令和元年5月24日評議員会終了後

出席者 12名（学校評議員と保護者代表PTA役員）

渡邊典子、松村峰子、安成美恵子、松尾隆彦、岩下元行、松尾芳徳、
橋高桃江、山本恵子、西田典正、山口法子 P、徳永あけみ P、高寄美奈 P

- 30年度参観行事：包丁授与式・創立記念式・体育祭・戴帽式・針供養 等
- 自己評価の分析について、資料の配布と説明（教頭）
- 感想・意見や提案（評価者）

重点目標1．基礎学力の充実と基本的生活習慣の確立

評価項目1：基礎学力の向上と多様な生徒に対する進路保障について

生徒たちの学力の実態が、多様であり、点数的に上下の幅が非常に大きいのはよくわかる。特に下位の生徒たちに理解を深めさせるのは大変だろうと想像できる。

国立教育政策研究所から出されている資料に、高校教育のそれぞれの教科において、各学年ごとに指導すべき目標内容（評価規準）が、関心態度や知識理解、創造的な技能、等観点別に設定明記してある。知識理解だけではなく多様な個性に対応するための指導と評価の観点になっていると思う。また、この資料は不断の見直しがなされ、改訂も重ねられている。

指導者が自分の教科において何を指導すべきなのか十分認識していないことには授業は漠然としたものになる。学校として長年培ってきた特性があると思うし、先生方もよくやっておられると思うが、学力充実の一番大事な部分の研究も徹底させていったらいかがでしょうか。

各科において、いろんな資格を修得させられ、進路保障までこぎ着けていること、敬服している。

基礎学力の向上については、鈴木田校長が、学力テストの結果の分析をされていたので感心した。これまで先生方も経験値で何となくわかっていたことが、はっきりと数値で示されたので、鮮明に認識できたのではないかと思う。

重点努力の中で、2「魅力ある学校づくり」の中に「分かる授業の工夫」をあげているが、このことについては、大賛成である。もっと具体的な取り組み

を知りたいと思った。

進路保障については、生徒アンケート（５）から「わからない」とする生徒が３１％。将来の自分の職業として何をやりたいのか、まだ定まってない生徒が多いという状況が見える。高校の３年間で様々な経験をすることが大事だと思う。

すでに学校が、様々な取り組みをされているので、生徒自身が、それを自分のこととしてとらえているのかという視点から内容の充実へとつなげていくことができるかと思う。

評価項目２：基本的な生活習慣の確立と安全な生活指導について

本校の生徒は、自ら挨拶をすることができていると思っていたが、夜に学校にお邪魔していると、まれに挨拶ができない生徒と出会うこともあった。部活動帰りで疲れているのかなと思うが、そういう時にできてこそ、身に付いたといえるのではないかと思う。

また、朝の登校時間に、スクールバスを待っている生徒を切りつけるという痛ましい事件が起きた。本校でも、ありうる事案だと思う。既に対策を講じられているかと思うが、生徒の安全確保には、心を配っておかなければならないと改めて思った。

重点目標２．魅力ある学校づくり

評価項目３：魅力ある学校づくりと生徒募集について

公立高校が自校のアイデンティティーを無くしたかのような衰退の兆候にある昨今、玉名女子高校の指導精神の根幹は揺るがず立派だと思う。変化への対応の柔軟性は持ちつつも、ぶれずに毅然として女子教育に取り組んでいただきたい。

また、学校は案外「例年通り」が多くなる傾向があるが、「これでいいのか、もっと改善すべきところはないのか」を常時続けておかないと、すぐにいろいろな問題が発生してくるだろう。私学の場合は特にそうだと思う。

一番近くから長年玉名女子高校を見ている私からは、先生方はもっともっと自信を持って生徒勧誘をしていいのではと思う。

これまでも、本校は、職員一丸となって「魅力ある学校づくり」に取り組まれてきていると感じる。これまでの流れをさらに発展させていただければよいのではないか。

「生徒募集」についても、学校が一丸となって取り組まれている。さらに発

展させていただければよいと思う。

重点目標 3. 文武両道

評価項目 4 : 教師指導力の向上

生徒たちがわかりやすい授業を受けることが出来るためには、先生方が指導力を高めていくことは大切と思う。先生方に頑張ってほしい。

評価項目 5 : 文武両道を目指す、学習と部活動の両立について

活発にスポーツ、文化活動をされていると思う。しかし、看護など、資格取得を目指す「科」は、カリキュラムも過密であり、部活動と学習の両立の難しさもあるのではないかと。学業優先でよいと思う。

文武両道を目指すという方針には賛成する。高校における取り組みについては詳しく理解できていないので、これまで本校でされてきたやり方を、さらに発展させていただければよいのではないかと思う。

放課後、いつも生徒たちが寮へ小走りで帰っている。数分後準備を整えてまたすぐに小走りで部活動の練習に向かっている。無駄口をたたいたりふざけたりしている者はほとんどいない。生活の中で各自の目的と、集団としての規律や秩序を持って行動している様子に感心する。彼女たちのほとんどが学力が高いばかりではないと思うが、自己を向上させる糸口をつかみ集団の中に適応し取り組んでいる点、むしろ充分ではないかと思う。学力が物足りない子でもそちら優先でやれていれば大いに評価すべきだろう。

吹奏楽部員の校外練習のための行き来の様子など、これ以上ないという集団行動だと思う。

バドミントン部の校外体育館を借用しての練習などは挨拶・後始末に至るまで小中学生の立派なお手本である。

生徒指導が難しくなり、秩序が保てなくなれば学校教育は大変な状況になる。現在の生活ぶりを見ながら生徒たちにも先生方にも大変有り難いと感じている。

重点目標 4. 人権同和教育の推進と楽しい学校環境づくり

評価項目 6 : 人権同和教育の推進といじめを許さない心の涵養について

人間の個性は多様であり、弱い子、問題がある子などいろいろな生徒たちがいるが、全てに対して敬意を持って指導に当たっておられると思う。

寮生の数があれだけ多く、四六時中生活を共にしているのですから大変難しいと思う。学生寮の隣地で野菜畑の作業をしていると、そばを歩いていく個々の表情を見るだけでも、大部分の生徒たちが安定していると思う。しかし、職業の経験から引かかるものを感じるときもある。一部の問題が、社会を巻き込んだ学校全体の問題となる昨今である。日頃から全職員感性を鋭くして精進していただきたいと思う。

生徒アンケートの(23)(24)から、残念ながら60%に達していない状況である。隣の小学校では、朝の始業前の時間帯、図書室の前には行列ができています。年齢の差もあるとは思いますが、その取り組みについては参考になるかもしれない。

(26)(27)から、60%を越えているが、これでは満足できない。いじめを許さない心は、他の人の気持ちを想像するところから育っていくのではないかと思う。自分の思いを他の人の心にやるという行為が「思いやり」だと考える。

学校(教職員)としては、いかにして生徒自身に「人の気持ちを想像する力」にきかせ、いかにして自分で育てていかせるようにするかが大事ではないかと考える。

想像する力を育てるために読書は必要なことではないかと思う。朝読書も、長く続けてほしいと思う。

SNSもあり、把握は難しいと思うが、アンケートを見ても、「楽しい」との回答は多いので、いじめは少ないのではないかと感じた。

その他・評議員所感等

校内の環境が少しずつ美しく整えられていっていることを感じます。評議員としてのみならず、同窓生としても大変うれしく感じます。歴史を大切に守りながら、温かく手が加えられていることに感謝します。

LGBTについて世間で話題に取り上げられることが多くなり、本校も創設者が考えた「綱領」の捉え方を考え直したり、女子高校のあり方を考えたりする時代となってきたように思う。すぐではなくとも共学について検討し、女子高校のままでよいのだろうかも含めて、広く柔軟に考えていかなければならない。